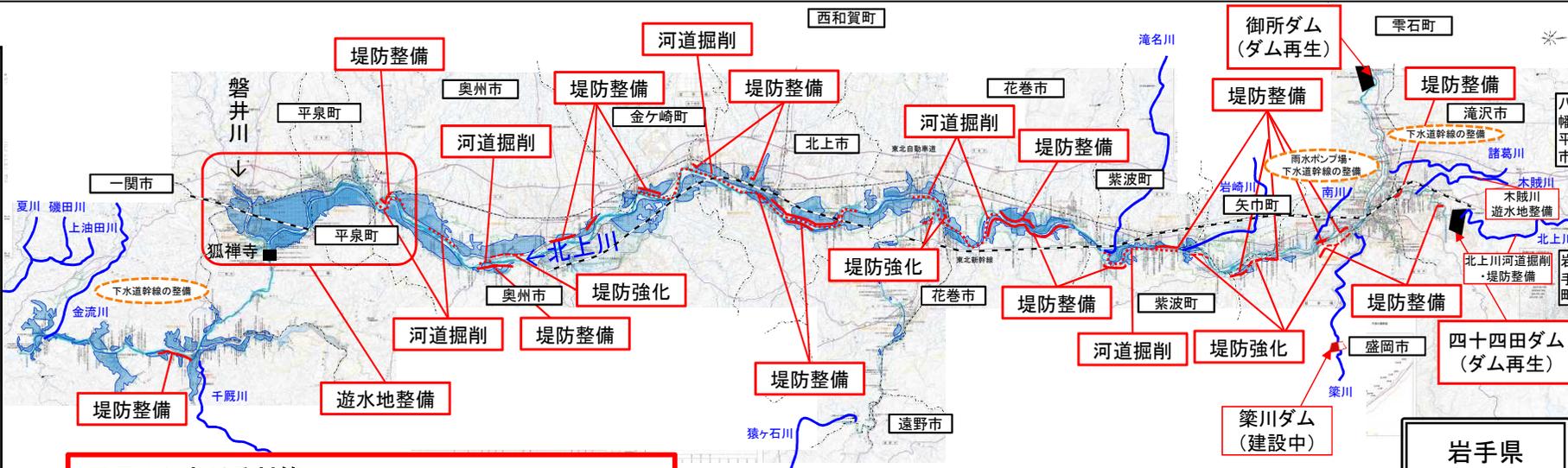
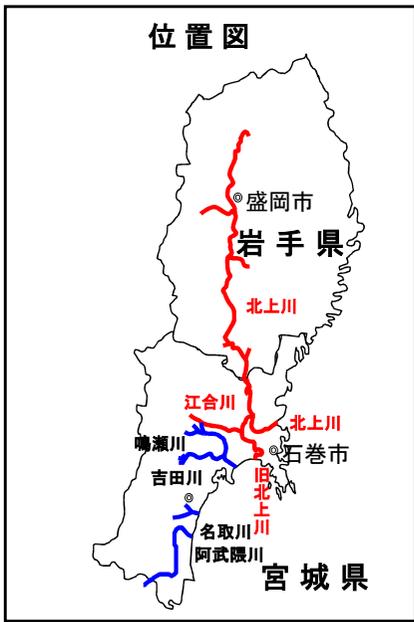


北上川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ（案）】

資料-3

～遊水機能を活かした治水対策の推進及び東日本大震災復旧復興事業の完遂～

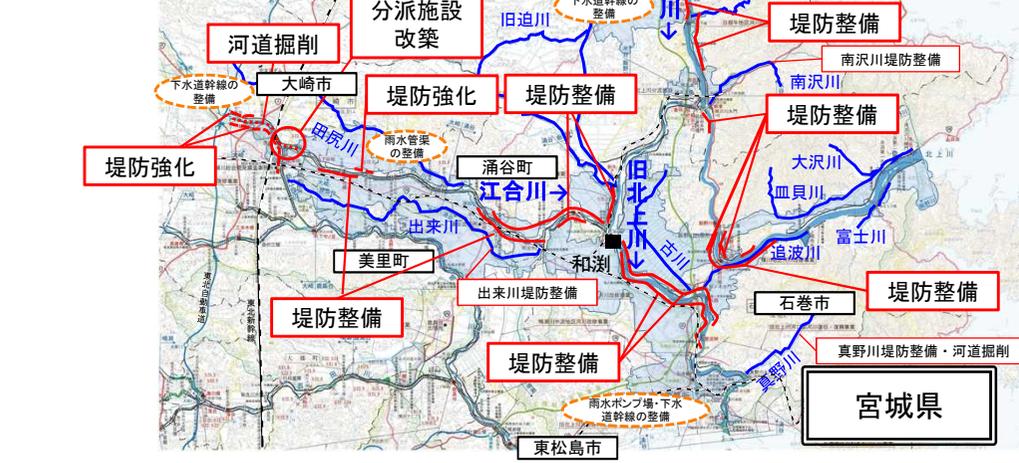
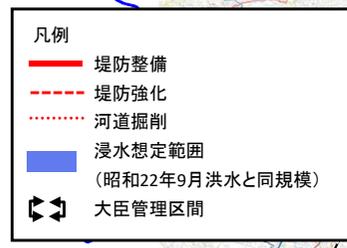
○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、北上川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、北上川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和22年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



■河川における対策
 対策内容 河道掘削、堤防整備、遊水地整備
 北上川上流ダム再生、築川ダム建設 等

■流域における対策
 ・利水ダム等40ダムにおける事前放流等の実施、体制構築 (関係者: 国、岩手県、宮城県、土地改良区 など)
 ・防災拠点等の機能確保
 ・下水道事業(雨水ポンプ場、幹線整備 等)
 ・土地利用に関する計画の見直し(立地適正化計画の策定 等)
 ・水田貯留、ため池の活用 等
 ※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト施策
 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
 ・メディアと連携による洪水情報の提供
 ・簡易型河川監視カメラの設置
 ・災害リスクの現地表示箇所拡大を促進
 ・マイ・タイムライン普及促進
 ・住民への情報伝達の充実
 ・ダム堰の効果・操作に関わる情報の周知
 ・水防資機材の拡充 等
 ※今後、関係機関と連携し対策検討



S22.9洪水(カスリン台風)死者・行方不明者242名、家屋流出2,065戸、全半壊5,330戸、床上床下浸水67,572戸
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。